

コンデンサーカートリッジ
CP-Y ¥28,000

コンデンサーカートリッジ用イコライザーアンプ
ECP-1 ¥32,000

コンデンサーピックアップシステム

CP-XからCP-Yへ。
ダイレクトピックアップの思想を
継承して、操作性と安定性を増して、

ピックアップの役割は、あらためていうまでもなく、レコード音溝から機械信号を拾いあげ、それに何もかも付加することなく電気信号に変換することです。これは簡単

なように見えて、実のところ非常に困難な要素が山積みされています。

カートリッジの振動系の質量と剛性の問題、さらに変換系の磁気歪の問題など、前者はレコード音溝へのトラッカビリティに大きく関係し、後者は変換時のリニアリティを悪化させる重大な要因になります。従来のマグネティック型では、カンチレバーの末端にコイルやマグネット、鉄片などを背負う必要があるため、振動系の軽量化には限界があります。また、マグネットとコイルによる発電方式は、磁気歪を逃がれようもなく誘引してしまいます。スタックスは最初の設計の時点でマグネティック型カー

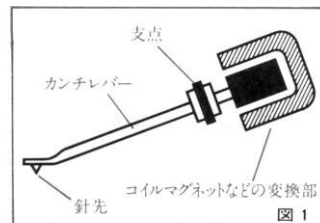
トリッジその他の宿命的な欠陥のある方式をとらず、カンチレバーを信号の伝達経路として使わず、針先を保持する役割のみにとどめる

こともできないかと考えました。こうすればカンチレバーの材質の影響から解放され、質量の軽減も可能になります。そして今から26年前、

コンデンサーピックアップシステムの開発に着手しました。一連のコンデンサーカートリッジの製品化を経て、1971年には一つの完成型といえるCP-X/POD-X/UA-7(70)というダイレクトピックアップシステムが創りあげられました。コンデンサーカートリッジは、カンチレバー自体を一つの電極とし、その上部に設けられた固定極との間に静電気を発生させ、カンチレバーの動きを静電容量の変化として検知し、それを音声信号として電圧に変える方式です。この世界でも類をみないユニークな変換方式が、マグネティック型のもつウィークポイントを根本的に解決し、たとえばようないほど透明で、緻密な再生音を可

能にしたのです。忠実なトランスデューサーとしての“能力”という意味では、まさに一方の峰に登りつめた感のあるシステムですが、発振検波器PODが調整を必要としたため、さらに使いやすさ(機能性にすぐれ、安定性に富んだシステムをスタックスは求めました。そして今、スタックスはその成果をここに贈ります。CP-XからCP-Yへ、ダイレクトピックアップシステムの思想をそのまま継承し、使いやすさと安定性を増して第2世代が開花します。

《ダイレクトピックアップシステムについて》
マグネティック型(MM型、MC型、IM型)の振動系の構造の一例が図1です。



針先がレコード音溝から拾いあげた信号は、カンチレバーを通り、振動支点を通して、カンチレバー末端のマグネット(鉄片)やコイルに伝達され、そこで電気信号への変